序

吾が第五高等學校は、昨年を以て開校五十年に達し、記念の式典を擧げて、榮ある過去を顧み、更に輝かしき將來を拓くべく、奮ひ起つたのであつた。余、圖らずも其の式典を司るの光榮を荷ひ、私には青衿在學の往時を懷ひ、公には丹心匪躬の現今を畏み、坐ろに感激の念を禁じ得なかつたのである。

學校の悠久なるべき生命よりいへば、五十年は一過隙の間であらう。が、開校當時、尺にも足らなかつた稚松が、今や亭々として天を摩して、龍南の一天地を成す所、其の朝な夕なの松籟は幾多の歴史の囁きで無からうか。而して、此の歴史を通じて成りつゝある傳統の力こそは、其の由つて來る所深く、其の育み成す所強いものがある。此の故に、記念事業を計畫

するに當つて、其の重なるものゝ一として、先づ五十年史の編纂を採り、之を白壁、八波、山形、松尾、田中、上田、池田、高森、藤田、菅野、竹原、小山、竹下の諸教授に諮つて、其の協力を乞ひ、特に高森教授には、其の主任を囑したのであつた。

高森教授は、文筆に長じて、斯の種の編述に堪能であるのみならず、嘗ては本校の生徒であり、今は本校の教授であつて、其の最適任者であることは、言を俟たぬ所である。但ゝ其の鼎盛なる力を、此の叢脞なる方面に消耗して貰ふことは、窃に申譯が無いと躊躇せざるを得なかつた。然るに教授は、自ら進んで其の任に膺り、三个年の間、教學の餘力を傾倒して、或は遠く親しく先輩を訪問して舊聞を纂め、或は斷簡零楮にによつて往事を究めて、遂に此の修纂を完成されたことは、洵に感肋の至りであり、爾餘の諸教授、亦陰に陽に之を幫けられたことも、鳴謝して已まない所である。

今や吾が五高五十年の足跡は明かにされて、龍南精神五十年の長養も掌に指すべくなつた。既往を回顧する者、將來を指導する者、齊しく其の求むる所を、此の中に滿たさるべきであらう。これ實に記念事業に睛を點ずる所以であつて、又同事業の完結を告ぐるものである。こゝに本書を公にするに當つて、重ねて高森教授を始め、爾餘の諸教授に敬謝し、又記念事業に熱誠なる援助を賜はりたる同窓諸賢に對して、更に新なる感銘を禁じ得ない。

昭和十三年十二月十二日

第五高等學校開校五十年記念會長

十時弥